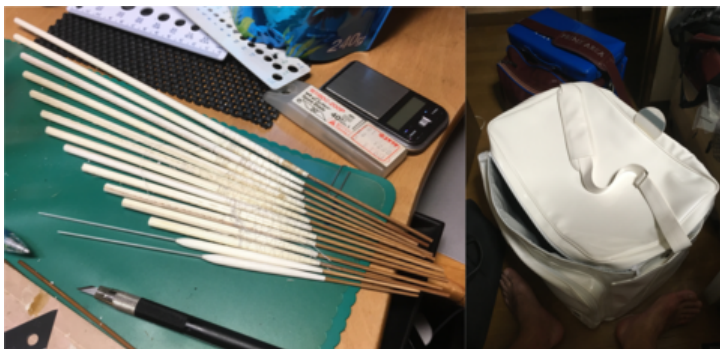


一年前の今日は芦ノ湖

2017年10月18日

ほぼ一年ぶりの更新でした。

僕は元気で遊んでいます。なんとウキも作り始めちゃいましたよ！って、ブログだけの読者なんて居ないと思いますが（笑）

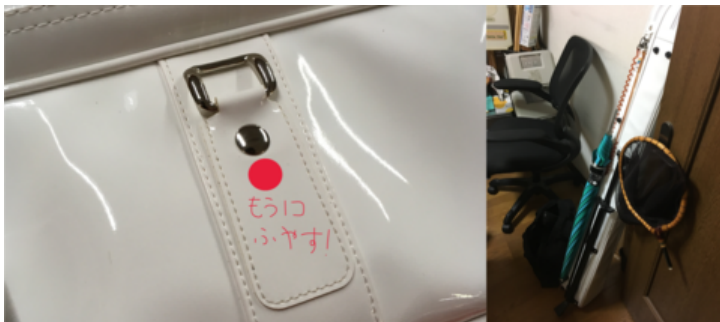


やっぱりFacebookの方がお手軽なんだろうね。

FB卒業宣言一転カムバック以降、ブログの更新は途絶えているという。。

ただ今回は、とあるブログを読んでの感想なんで、自分もブログで書くことにしました。

（面識も無い方ですし、さすがにソースは明かせないですけどね）



エナメルの縫製でググっている時に辿り着いた、服飾評論家（自称）のブログ。たまに覗くと発見があり、勉強にもなるんだけど、いつも感じるナニカ。

なんだろう？

この違和感。

で、真面目に考えてみた。

それは、自分が最高だと信じるが故の盲目だ、と。元業界人の氏自らも作る服やバッグは、誰が見ても（たぶん）ダサイんだけど（失礼すみません）、いつもの毒舌は自分には向かわない滑稽さが読んでいてキツイ。有名人なら、そのセンスもアリ？と思わせてしまう可能性は残されるけど、パンピーで貫くのは難しく、イタイ人にしか見えない。。

ダサイ（何度もすみません、趣味は人それぞれです）という評価を受け入れ、

「それでも辞められないのゴメンね～σ(^_^;)」

なスタンスなら可愛いんだけどね。太鼓持ちに乗せられて、自分が有名人だと思ってるのかもしれない。いや、きっと周囲の大人は優しく、氏にダサイとは言わないんでしょうね。言えない、のか。言うべきだと思うけど。本当の仲間の優しさとしては。

(まあ、僕もこういうケースで言えなかった記憶は多々ある)

良いのよ。自分可愛い、は。誰でもそうだから。「適度な」プライドは大事です。

プロ顔負けの縫製は、詳細な画像から確認できる。素晴らしい技術だ。素人にもわかりやすい解説で、(解説が門外漢への洗脳でないとするならば) 拘りもマニアック。でも、生業にする者と趣味の延長の者とは、土俵が全く異なる。ビジネスであれば、生産性第一。ものづくりにおける志とか職人の魂とか、そういう綺麗事は置いて、品質を落としても高く売ればベターなワケで、そのプロが採算度外視で本気出したら敵わないかもしれない、という遠慮がゼロじゃマズいっしょ。プロでないのであれば。たまにでも良いからさ。

服というアイテムが、消耗品なのか芸術作品なのかは、買った客が決めることじゃないのかな。5マンエンのTシャツだって、一度着たら捨てられる経済力のある人もいるだろうし、価格で決まるものではない筈です。作り手に出来るとしたら、消耗品として買って欲しい、とお願いすることくらい。消耗品としては価格と見合わないとか客が感じるなら、買わなければ良いだけのこと。もちろん、お直ししますよ、消耗品ではありませんよ、長持ちさせるお手入れのコツもお教えしますよ、と作り手が言うのは自由だけど、5ヒャクエンだろうが5マンエンだろうが俺のは芸術作品だからな！という売り方をすれば、誰も買わない(たぶん)からタダの馬鹿だ。

何よりも問題だと思ったのは、その自称評論家は引きこもりで、ほとんど家から出ないこと。提案する膨大なコーディネートも本人の脳内妄想でしかなく、自ら作った服が世間の目に晒され不特定多数からのリアルな評価を受けることを避けながら、遠隔で吠えるのはルール違反だろう、と。これが釣りなら、釣りに行かない奴にノーガキ言われたくないでっせ！ってことですね。釣れない奴に言われたくないってのもあると思いますがσ(^_^;)」

あー自戒www

あーブーメランwww

こういう人はもう、一生治らないんでしょうね。どこかで自分以上のお馬鹿さんと出会い、怖くて痛い思いをするまでは。運が良ければ、幸せな？人生を全う出来るのかもしれませんが。

その「知」、その「技術」は貴方が発見したの？編み出したの？

違うよね。先人から教わったんでしょう？だったらもう少し謙虚になろうよ。伝承の責任と真摯に向き合って、ひけらかすような態度はやめようよ。

行きがかり上(フナピーウェブのボランティア)、ミシンの使い方なんかに興味を持ち出した僕にとって、とてもためになる内容だけに、勿体無いと感ずるのでした。

一年前の今日は芦ノ湖: MADOGIWAのMacで書くブログ (改)



どうでもいいですけど、昨年の今日は雨の芦ノ湖だったみたいです。帰りはとりまる。
お節介なFBが教えてくれました (笑)

白レバーも良いけどハツもね〜♪あー食べたくなって来た！

ハッシーのマルポロが懐かしいですな。。

